

かとうづかあとち
加藤塚跡地

旧跡

所在地：瑞穂町箱根ヶ崎 315 番地



戦国時代、甲斐武田氏の滅亡時に、その家臣であった加藤^{かとう}丹後守景忠^{たんだのかみかげただ}は、所領より妻子及び数名の家来をつれて当地まで逃れました。しかし、北条氏の支配下にあった多摩郡を越え、人間郡に入る事ができず天正10年（1582）4月11日にこの地で果てたとされています。村民はその死をあわれみ、塚を築き葬ったとされ、痕跡の残る2基の

五輪塔はその当時のものと考えられています。やがて、村民の間にも信仰の念が深まり、加藤八幡宮が建立されました。その後、都道拡幅に伴い、塚が現在ある場所に移され、社^{やしろ}も新築されたため、かつて町史跡だった加藤塚が町旧跡に改められました。